

# 展示品の 見どころ

## 仏涅槃図

重要文化財  
絹本着色 180.3×164.8 鎌倉時代  
兵庫・浄土寺蔵

仏教の開祖である釈迦がインド・クシナガラくしながらの跋提河ばだいがのほとり、沙羅双樹のもとで入滅したのは、二月十五日の満月の夜のことであった。釈迦の死は究極のさとりねはんの姿として、特に涅槃と呼ばれる。その涅槃の情景を絵画化した涅槃図は、釈迦の命日すなわち毎年二月十五日に行われる涅槃会ねはんえの本尊とされ、日本全国の仏教寺院に伝わっている。

ここに紹介する浄土寺本は、数ある涅槃図の中でも彩色の美しい優品として知られており、鎌倉時代後期に制作されたものと考えられる。正方形に近い画面のほぼ中央、八本の沙羅双樹に囲まれる宝台すばくめんさいの上に、釈迦が右手を手枕にして頭を北、顔を西に向ける「頭北面西」の姿で横たわる。その周りを取り囲む菩薩や仏弟子、八部衆、四天王、象や獅子などの動物を含む会衆たちが、それぞれ顔を押しえたりひっくり返ったりして泣き叫びながら釈迦の死を悼んでいる。また、画面向かって右上には、釈迦の母である摩耶夫人が、仏弟子の阿那律に先導されながら雲に乗って駆けつけるところが描かれている。



ころが描かれている。

ところで、日本において涅槃図を本尊として行われる涅槃会は、その季節がら春を迎える年中行事としても親しまれてきた。奈良に春をつげる行事として多くの人でにぎわう東大寺の修二会（お水取り）でも、その最後を締めくくる行事として三月十五日（旧暦の二月十五日）に涅槃講が行われている。今回、浄土寺本など涅槃図がまとめて展示される当館東新館では、二月十八日（火）から三月二十三日（日）まで「お水取り展」を併せて開催する。ぜひこの機会に涅槃会と修二会という伝統ある春迎の行事の魅力の一端をあじわっていただきたい。

（企画室研究員 谷口 耕生）

■開館時間 9時30分～17時、1月12日（日）、3月12日（水）は19時まで  
※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 月曜日（ただし1月13日（月・祝）は開館、1月14日（火）閉館。

■観覧料金

平常展	一般	大人	大学・高校生
	420円	130円	
団体	210円	70円	

\*団体は責任者が引率する20名以上。



〔交通案内〕近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

「奈良国立博物館だより」は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒（90円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の企画室にお申し込みください。

 **奈良国立博物館**  
Nara National Museum